

健康登山26:自然歩道13 (笠置駅～柳生～柳生街道～奈良駅)

コース	笠置駅 4.7km/75 2.8km/59 0.9km/17	柳生陣屋跡 2.7km/56 円成寺 4.4km/92 首切地蔵 1.4km/29	南明寺 2.6km/54 石切峠茶屋 0.7km/13 白毫寺分岐 3.2km/40	夜支布山口神社 春日山石窟仏 奈良駅
水平距離	23.4km		断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km	
水平換算距離	21.9km			
累計高低差	登り866m、下り828m			
標準歩行時間	7:15			
実績歩行時間	7:11			



山行報告

山行日 2007・7・05 (木) 天候 曇り時々晴れ 参加者 9名

笠置駅9:30 鹿鷲橋10:16 柳生陣屋跡10:43 南明寺11:42~12:15 夜支布山口神社12:53 円明寺13:38~14:10 石切峠15:32 春日山石窟仏15:55 首切地蔵16:09 白毫寺分岐16:54 興福寺南円堂17:34 近鉄奈良駅17:41 京都へ

記録

今回は東海自然歩道を柳生から奈良まで柳生街道を歩く計画だが、柳生までの交通手段がなく笠置駅から柳生陣屋跡まで滝川沿いの車道4.7kmを歩いた。
柳生の里には門塀で囲まれた風格のある家が点在し、芳徳禅寺や旧家老屋敷など見どころ満載だが前回見学しているのので、この柳生陣屋跡が本日のスタート地点である。
道標にしたがって西に曲がり坂道を登るとすぐに疱瘡地蔵に着く。石畳の道は風情があるが前日までの雨で滑りやすく慎重に歩いた。坂原の集落で『おふじの井戸』を見たあと重文に指定されている南明寺で昼食をさせてもらった。
昼食後は山際や畦道を縫うように大柳生の集落を通り抜け、道路を横切ったところにある夜支布(やぎう)山口神社に参拝した。この神社は大柳生の氏神で平安時代から続く古い社とのこと。ここから少し山道を歩くと忍辱山円成寺に着いた。街道随一の名刹で運慶25歳ころの作といわれる国宝大日如来坐像などを拝観させてもらった。
歩きやすい尾根道や車道を1時間ほど歩くと石切峠につく、峠の茶屋の主と歓談しながら草餅をいただいた。
芳山への分岐を過ぎ、春日山石窟仏に立ち寄り、新池の傍を歩いて首切り地蔵で休憩した。滝坂道の石畳を朝日観音、夕日観音、寝観音などを見ながら白毫寺分岐まで一気に下った。
本日の自然歩道はここで終わりだが、春日神社、興福寺を経て近鉄奈良駅までの3.2kmが長く感じられた。
柳生街道には石仏が多い。どんな願いをこめて作られたのかわからないが歴史の重みを感じられる道である。梅雨の晴れ間で気温も低くさわやかな気分で歩けたのは幸이었다。

自然歩道 (笠置駅～柳生～柳生街道～奈良駅)



柳生陣屋跡
10:43



ほうそう地蔵
11:01



南明寺本堂
12:09



夜支布山口神社
12:54



円成寺多宝塔
13:51



石切峠の茶屋
15:32



春日山石窟仏
15:55



首切地蔵
16:09



石畳の滝坂道
16:27



興福寺南円堂
17:34

名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：笠置駅～柳生～柳生街道～奈良駅）

参考資料、奈良の伝説、HP／その他

- ◎ 柳生街道：春日山と高円山のあいだに流れる能登川に沿ってまっすぐ東上する小道が柳生街道である。伊賀、伊勢への近道であり、柳生への近道でもある。柳生からは「奈良道」と呼んだ。奈良側に、能登川溪流の随所に小さな滝を作っているため「滝坂の道」という。この辺り敷き詰めた石畳の道で、近世に柳生家が奈良奉行に敷かせたと伝えるが、鎌倉時代以前からのものともいわれる。
- ◎ 街道筋の奇妙な名の集落：釈迦修行の地の、インド五山になぞらえて建てられた寺のあった所。この辺り春日山（御蓋山、花山、芳山）から背後にかけて修行の場であった。誓多林、大慈仙、忍辱山、（高円山麓の鹿野菌、菩提山）
- ◎ 疱瘡地蔵：昔疱瘡が流行った時、村人達がこの地蔵に願をかけると、たちどころに治ったところからその名が生まれたという。昭和44年直ぐ下の土の中から見つかった時、顔の部分が剥落して疱瘡にかかったように見えたので、そう呼ばれている。現在は修正されている。向かって右下に、正長の土一揆の柳生徳政碑文が刻まれている。徳政（債権、債務の破棄命令）を勝ちとった喜びを地蔵の脇に刻んだという珍しいもの（国史跡）で貴重な資料でもある。元応3年（1319）の銘あり。
刻文：「正長元年ヨリサキ者 カンへ四カンカウニ ヲ井メアル ヘカラス」
訳文：「正長元年1428年以前に神戸四ヵ郷（大柳生、柳生、坂原、邑地）には負債あるべからず」春日社領郷民の負債破棄宣言の徳政を表している。
- ◎ おふじの井戸：柳生の殿様（柳生宗矩）がある日奈良に出かける時、おふじという村娘が洗濯中、いきなり馬を止めて、馬上から『お前は、いま洗濯しているが、そこの波は幾つあるか』と出し抜けに尋ねた。おふじはすぐに『波（7・3）は21でございます』と答えて、すぐに『殿様、柳生から此処まで、馬の足跡は幾つほどございましたか』と問い返した。宗則はぐっとつまり、娘の才気に惚れ、側室に召し入れる事にして馬に乗せて柳生に帰った。とき宗矩60歳を越えていたと言われる。おふじに継母が居て、坂原と柳生の間の峠まで見送った。それでこの峠を『かえるさば』と呼び、洗濯していたところを『おふじの井戸』と呼んでいる。
おふじの生んだ子が柳生家菩提所芳徳寺の第一世烈堂和尚であるという。
（劇画、「子連れ狼」の柳生烈堂はフィクションです）
この地区（坂原）に♪「仕事せんでも、器量さえよければ、おふじ但馬の妻となる」という俗謡が残されている。

- ◎ 坂原峠 : おふじの母が『かえりさば』と見送ったところなので、いまもそこを『かえるさば』と呼んでいる。静寂漂う峠。
昔花嫁が東の柳生から西の大柳生に嫁入りする時、ここで故郷の名残を惜しみ振り返った所といわれる。

- ◎ 神戸四ヵ郷 : 柳生天乃石立神社のご神体は、神代の昔、天の岩戸を手力男命が押し開いた時、その扉の一片が大空を飛び、この小柳生の庄にきて留まった。
それがご神体で神戸岩かんべいわという。神の宮居ぐうきよの戸という意味である。
この辺りを戸岩谷かみいわたにといい、この谷一帯に自然石がたくさん有り、3132 柱の神々がそれらの岩に住まれるという。
それで小柳生、坂原、邑地、大柳生を合わせて昔から神戸四ヵ郷かんべといった。のちに平安中期、関白頼道がこの地を奈良の春日に寄進した、そのとき神戸岩が鳴動し、その後も皇室に慶事があるごとに鳴動するという。

- ◎ 南明寺なんみょうじ : 本堂(重文)は鎌倉時代のもの。堂内に平安時代の釈迦、薬師、阿弥陀如来の坐像三体が安置されている。拝観不可(事前予約)

- ◎ 夜支布山口神社やぎふ : 大柳生の森の中に鎮座する延喜式内の神社。
摂社の立磐神社たていわの本殿(重文)は江戸時代に春日大社の第四殿を移したもの。背後の巨石がご神体。

- ◎ 勧請縄 : この縄は集落の入り口にあり結界を示す。悪霊や穢れ、疫病が入らないように五穀豊穰、村内安泰を願う意味があり、綱の飾り物は陰陽を表す。

- ◎ 忍辱山円成寺にんにくせんえんじょうじ : 柳生街道第一の名刹、平安時代京都の円成寺を移したとも言われる。
本堂は表が入母屋造り、裏が切妻造りで珍しい建築である。鑑真の弟子、虚滝が創建したとも言われるが、一般にはそれよりあとの万寿年間 11 世紀に入山した命禅上人の開基とされる。鎮守社の春日堂と白山堂は一間社春日造檜皮葺様式で安貞 2 年(1228)の創建春日造りとして現存最古である。
多宝塔に運慶 21 歳頃の作と言われ大日如来像(国宝)などが安置されている。庭園は浄土式と舟遊式を兼備した庭園で国名勝。

- ◎ 峠の茶屋 : 円成寺から 4.7k m 奈良寄りにある茶店。街道を往来した武芸者が酒代の代わりに置いていったといわれる槍や火縄銃が鴨居に掛けられ、また古い武芸帳、新道無念流の極意書や鉄扇も所蔵している。
名物に草餅 150 円/個がある。

- ◎ 石切峠 : 近鉄なら駅から 7.3 km。標高 450 m に峠の茶屋がある。
この付近で大仏殿建立のため石を切り出した。又近くには石窟仏などがある。

- ◎ 地獄谷石窟仏(聖人窟) : 春日山信仰に由来して点在する石仏の一つ。石を掘り出したあとの洞に線刻された仏像がある。修験者が寝起きして調刻したとか、大仏殿建設のおり、石材採りの石工が調刻したなどとも伝えられている。
正面中央は盧舎那仏(又は釈迦如来とも)。奈良時代後期のものといわれる。
左は薬師如来、右は十一面観音で室町時代頃に追刻されたらしい。
右壁に妙見菩薩、左壁には阿弥陀如来と千手観音が彫られている
地獄谷は、昔、奈良の捨墓^{すてはか}で墓を作らず死者は野晒しにして葬った。
現在は水源環養保安林になっている、**新池の紅葉**は有名。
〈道中の山蛭に注意〉

- ◎ 春日山石窟仏(穴仏) : 奈良から石切峠にさしかかる坂の左手にあり石切峠の穴^{あなぼとけ}とも呼ばれる。東西二つの石窟があり、全部で 18 体の石仏が刻まれている。
東窟中央に四仏、東壁に六観音像、西壁中央に大日如来像、西壁に六地藏西窟に久寿 2 年(1155)刻銘がある。自然歩道より 30m 上方にある。(地獄谷は遠回)

- ◎ 首切り地藏 : 荒木又衛門が試し斬りしたという伝説。剣豪達が柳生道場に往来した街道の目印であった。またこの辺り南都七大寺の僧達の修行の場で有り石仏も多い。

- ◎ 朝日観音 : 朝日のさす東方を向いている。
中央は弥勒菩薩、左右は地藏菩薩、鎌倉時代文永 2 年(1265)の銘あり。

- ◎ 夕日観音 : 夕日を受けると美しい(鎌倉時代)

- ◎ 寝仏 : 山肌に彫られていたが崩れ落ちて寝転がったようになったのでそう呼ばれるようになった。大日如来(室町時代前期)

- ◎ (白毫寺) : 天竺から伝えられたという薬師瑠璃光如来(秘仏)眉間の白毫から神々しく瑞光を放っていたので、白毫寺と名付けられた。志貴皇子の山荘跡を寺とした。萩、椿の花の寺としても知られる。裏山は高円山^{たかまどやま}で南側に登山口がある。

- ◎ 新薬師寺 : 新は靈験あらたかさを意味する、聖武天皇眼病平癒祈願天平 19 年(749)勅願により光明皇后が建立。天平時代は南都十大寺の一つに数えられた。天平時代の十二神像、平安時代の薬師如来像は共に国宝。